

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和5年度第3回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和6年1月17日(水) 午後2時から午後4時30分まで
- 3 開催場所 水戸市役所2階 市民協働会議室こみっとルーム1・2
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 渡辺 賢治, 谷萩 美智子, 大竹 隆志,
鹿倉 よし江, 小島 幸子
- (2) 執行機関 【市民生活課】参事兼課長 白石 嘉亮,
副参事兼課長補佐 入野 高司,
協働係長 橋崎 真哉, 主事 松川 のぞみ
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働推進基本計画(第3次)素案について(公開)
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 0人
- 8 会議資料の名称 (素案)水戸市協働推進基本計画(第3次)こみっとプラン
- 9 発言の内容

事務局	(開会の挨拶, 進行についての説明)
委員長	本日は, 水戸市協働推進基本計画(第3次)素案について協議する。
事務局	[水戸市協働推進基本計画(第3次)素案第1章から第5章について説明]
委員	皆様から御意見を伺いたい。質問はあるか。
委員	水戸市の第7次総合計画に載せるものであるのか。
事務局	第7次総合計画は市全体の方向性を示すものであり, 水戸市協働

	<p>推進基本計画は個別に協働の推進に関する方針を示すために作成している。第7次総合計画を具体化するための個別計画である。</p>
委員	<p>委員の責任が重大である。</p>
委員	<p>13ページの第2回市民懇話会における、若者応援枠を設けた方が良いという意見に賛成である。今まで若者との区別がなかったので、学生や若い人にとっては分かりやすくなり、応募が増えるのではないかと思う。</p> <p>また、33ページの庁内推進体制の強化については、協働推進員（ナビスタッフ）が協働の推進に関わることができる仕組み作りをしていただきたい。保和苑のあじさいまつりで近所の高校生が作った和菓子を販売していたが、市の補助金の制度があることを知らなかった。市担当課もわくわくプロジェクトを熟知しておらず、提案には結びつかなかったので庁内の連携を強化していただきたい。</p>
委員	<p>どうすればもっと広い範囲で情報が発信できるのか検討の余地があり、職員が熟知している必要があると意見が出た。わくわくプロジェクトが若者に知られていないという御意見は再三いただいている。</p> <p>こみっとネットとは、市内のボランティア団体で活動する市民が主体となって活動し、情報発信を行って成果を上げるものであるのか。</p>
事務局	<p>こみっとネットにおいて、例えば、若者へ発信するためには、教育委員会やみとの魅力発信課など高校生や若者をつながりのあるネットワークを使っていくことが有効であるように、様々なネットワークを活用していきたい。</p>
委員	<p>新たな施策は意欲的に感じる。協働系の業務は多くなると思うが、人員を増やし、予算を増やすことについては目算を立てているのか伺いたい。</p>
事務局	<p>新規事業は今後詳細を検討していく。予算獲得や増員については、この計画をもって弾みをつけていきたいと考えている。</p>
委員	<p>市民懇話会ではどのような団体や年代の人が集まったのか。また、団体の高齢化が問題となっており、若者向けの施策に興味があるが、若者応援枠とは具体的にどのような内容であるか伺いたい。</p>
事務局	<p>市民懇話会の構成は、市内のNPOやボランティア団体から応募があり、おおよそ40代から70代の方々である。若い世代を巻き込みたいという意見から若者応援枠の案が出た。若者が企画したものを後押しできるように補助金の額を低く設定していきたい。</p>
委員	<p>具体的な活動は第3章及び第4章だが、第1章から御意見あるか。</p>
委員	<p>4ページの用語解説において、「企業」が入っているが、なぜ入られるのか伺いたい。企業が広域的な活動をするからであるのか。</p>
事務局	<p>用語解説に「企業」を入れた理由は、営利目的に感じることもあ</p>

	<p>るため、社会貢献することもあるという意味を持たせるためである。</p>
委員	<p>ボランティアの担い手が多様化しており、NPO法人が強めに出ているが、非営利の一般社団法人も増加している。また、労働者協同組合法の施行によって法人格の選択肢が増えている。</p>
事務局	<p>用語の定義については、第1次及び第2次の水戸市協働推進基本計画においても同様の記載であるが、御指摘のとおり、市民活動団体の多様化を踏まえて検討させていただく。</p>
委員	<p>企業は用語に入っているが、実際に今まで企業との連携がなかった。また、拠点がほしいという意見もあるが、協働系の人員だけでは片手間に業務を行うことができない。拠点づくりは、企業との連携も考えた方が良いのではないかと。企業に重点を置いた施策を考えるのはどうか。</p>
事務局	<p>第2次計画にはない新しい施策になるので検討させていただく。</p>
委員	<p>これから5年間は企業との連携のまちづくりが必要になってくる。あまりにも連携がないまま10年間進んできた経緯があるため、今後は可能性を広げてほしい。</p>
委員	<p>7ページのデジタル化の進展について、デジタルの活用はポジティブな面とネガティブな面の両方がある。シニア世代でデジタルを活用している人が増加しているが、スマートフォンやSNSに苦手意識がある人が多い。また、デジタル化の進展によって、空気を読みすぎてしまう子どもが増えている。そのような市民ニーズを踏まえても良いのではないかと。</p>
事務局	<p>いただいた御意見を参考に検討させていただきたい。</p>
委員	<p>世代によってデジタル化に対応できていない人がいる。高齢化する世の中で、市民がデジタルの生活に順応できるような環境を整えることが大切である。旧水戸市市民活動情報WEBサイト「こみっと広場」の予算40万円が削減され、セキュリティ強化のために水戸市ホームページへサイトが移行されたが、削減された予算を取り戻すことはできないか。その予算で発信するシステムを再構築するか、発信を工夫することが必要ではないか。</p> <p>第1次計画当初は、市民のボランティア意識の高まりがあった。コロナ禍で市民活動団体が減少したようだが、令和5年8月にリニューアルした水戸市市民活動情報サイト「こみっと広場」の登録団体は現状19団体のみであり、今後5年間で挽回したい。基本的な情報発信の場となることも事実なので新年度に向けて協力したい。</p>
委員	<p>こみっと広場の登録団体は19団体と言うが、社協のボランティア団体登録は160団体あり、その違いを伺いたい。</p>
事務局	<p>社協は福祉ボランティアに限ったものでボランティアセンターと一体的に進めている。こみっと広場は全ての市民活動団体を対象としている。</p> <p>コロナ禍以降、市民活動団体は減少傾向にあるが、わくわくプロ</p>

	<p>ジェクトの参加団体も取り込むことで、皆様の御協力を賜りながら社協の登録制度との棲み分けを行いたい。</p>
委員	<p>福祉ボランティアが主だが、福祉だけではなく個人でボランティアをやっている人もいる。ボランティアをやりたい人は社協の職員が面談を行っており、有償ボランティアも行っている。こみっと広場と社協の登録制度の違いを詳しく教えていただきたい。</p>
委員	<p>社協は福祉ボランティアに特化したものであり、こみっと広場は福祉以外のボランティアを含んでいる。社協は地域福祉を担っており、登録団体はミオスの施設を無料で使うことができるというインセンティブがある。有償ボランティアは本来、ボランティアなものである。こみっと広場は、市のホームページに掲載できるが、市民活動団体はメリットを感じていないのが実情である。</p>
委員	<p>こみっと広場に登録すれば市民協働会議室こみっとルームを使用することができるのか。</p>
事務局	<p>登録の有無にかかわらず市民協働会議室こみっとルームは市担当課と市民との協働に関する会議等であれば使用が可能である。</p>
委員	<p>こみっとフェスティバルでもチラシを渡して登録をお願いするなど、市民活動団体がつながる裾野を広げていくことが大事である。コロナ禍でコミュニケーションの深刻な断絶があり、特に若者をバックアップしていく必要がある。</p>
委員	<p>15ページにおける水戸市協働推進基本計画（第2次）の取組について、「実施」とあるが、実際にはどの程度行われたのか分かったら良い。</p>
事務局	<p>基本方針ごとに主な成果や今後に向けた方向性をまとめ、19ページに課題の総括と対応の方向性としてまとめている。</p>
委員	<p>19ページの「まちづくりへの参加促進」について、子どもの貧困は見えにくく、おそらく水戸市内では、10人から9人に1人は貧困状態であるとも言われている。市民は同じ町内にいることを意識しておらず、市民活動団体は無料塾に通う子どもから支援を行っている。団体の取り組む課題は情報発信だけではない。</p>
委員	<p>市民は、どのような課題が地域の中にあるのか見えにくい。こみっと広場で団体を掲載するだけでなく、常時情報発信できるようにしたい。市の状況を理解できるように取り組む方法はあるか。</p>
委員	<p>例えば、こみっと広場に地域の困り事欄を設け、シングルマザーからの意見を踏まえた課題の提示を行うという方法もある。ボランティアを行う前に、なぜその活動を行うのか代弁者としての機能を持たせて伝えることが必要である。</p> <p>10ページの市民活動の担い手の不足等において、地域コミュニティ組織の加入率について触れてはどうか。他の自治体ではその傾向が見られる。</p>

事務局	協働は地縁的とテーマ的の二つに棲み分けしており，自治会や町内会等の地縁団体については，水戸市住みよいまちづくり推進協議会と連携して，コミュニティ推進計画として別に作成している。
委員	地縁団体は住みよいまちづくり推進協議会が管轄しているが，自治会には若い世代の加入率が少ない。
委員	市民活動団体は少子化によって存続が危うく，ナビスタッフと協力できると良い。いずれは社会問題と施策を合体させていきたい。
委員	合体できる部分とできない部分があることが実情である。
委員	こみっと広場の登録団体は112団体から19団体に減少したのか。
事務局	令和5年8月にリニューアルを行い，再度募集を行っている。
委員	登録団体が増えてサイトを有効活用していきたい。 第3次計画の目指す姿として，5年後の水戸市のあるべき姿をイメージし，「あらゆる市民のネットワークで高める協働のまちづくり」とある。あらゆるが市民またはネットワークのどちらにかかるのか。また，高めるが何を意味するのか。市民が明解に理解できるようにしたいが，何か意見はあるか。
委員	行政計画において具体的な目指す姿を提示しにくいと思うが，一人一人の市民が組織とつながり，まちづくりを行うことが分かれば良いのではないか。その文言よりも計画の中身が重要である。
委員	目指す姿を一行でまとめる必要がないようにも感じるが，案の通りで問題ないと思う。
委員	事務局と改正するかどうか改めて協議させていただきたい。 地域円卓会議について状況を伺いたい。
委員	茨城NPOセンター・コモンズも主催として関わり，地域課題を取り上げ，課題にどう関わることができるかを公開型で協議している。地縁組織だけでなく，地域の住民が主体となった自治組織も取り上げている。水戸市が単独でやるかどうかは不明だが，施策として組み込まれている。
事務局	既に地域円卓会議の実行委員会があり，市もそこに関わる形で施策として記載した。
委員	地域円卓会議の結果は還元されているのか。
委員	結果の還元は見えにくいですが，参加者が持ち帰り，各地域で活かしていただくものである。2年前の地域円卓会議では，福祉シェルターのテーマでシェアハウスの取組を学んだが，実際に茨城NPOセンター・コモンズでは，被災住宅でDVシェルターを運営するようになった。
委員	色々な分野の人の話を聞くことでまちづくりに役立つと分かれ

	ば、参加者は増えると思う。
委員	26ページの「協働のまちづくり事例集の募集・提供」における「市民協働会議室こみっとルーム等で広く提供」とは、どのような意味か。
事務局	市民協働会議室こみっとルームは通常、半分で区切り、市民に開放しているスペースがある。そのスペースに掲示するという意味であり、ラック等を活用したい。
委員	市民協働会議室こみっとルームは入りにくいように感じる。
委員	せっかく集めた事例集を多くの人に見てもらえるようにしたい。
委員	市報に掲載してはどうか。
事務局	広報みとには作成したことを掲載し、市のホームページから事例集をダウンロードできるようにする方針である。
委員	若い人はネットで情報収集を行っているので問題ないと思う。
委員	市民活動事例集であれば、協働の要素はなく、わくわくプロジェクトが協働の本質である。市報には市民活動の紹介コーナーを設け、わくわくプロジェクトを市民に発信してはどうか。
委員	大学には地域連携センターがあり、市から大学へメールでデータを送信することで学生に共有できるため、大学を巻き込むことで若い世代に意識付けしてはどうか。
委員	大学に発信することは若い世代に発信することになるので賛成である。大学のゼミでは、学生がまちづくりについて発表したことがあったが、実際にまちづくりに生かされたのか不明であった。学生へまちづくりの提案を行うよう依頼できないものか。また、市報に市民活動の枠を設けることに賛成である。
委員	若者で市報を見る人は少ないと思う。
委員	町内会・自治会に加入していない人は市報が配布されないが、デジタルで市報を見ている人はいると思われる。
委員	27ページにおける「若い世代に向けた市民活動団体との交流の機会の提供」は「新規」とあるが、これから開始するのか。
事務局	既に実施しているが、第2次計画に記載のないものは「新規」としている。高校生・大学生と市民活動団体の交流の場は開催している。
委員	27ページの「外国人市民との交流の機会の創出」とは、どのように行うのか。
事務局	外国人市民への情報発信を行い、こみっとフェスティバルに呼び

	<p>込みたいと考えている。</p>
委員	<p>地域社会の中に外国人が増加しており，市民の中に外国人を含んだ形で考えていかなければならない。</p> <p>28ページの「市職員・市民活動団体・市民に対する研修の実施」とは，ナビスタッフのことか。</p>
事務局	<p>ナビスタッフと2年目の職員を対象に研修を実施している。</p>
委員	<p>30ページの「財政基盤の強化に向けた研修の実施」について，講師を呼んでいるのか。</p>
委員	<p>情報発信など市民活動団体の運営力を強化するため，茨城NPOセンター・コモンズが外部講師として担当している。</p>
委員	<p>市民協働会議室こみっとルームの活用について，水戸市役所は基本的に土日休みであるが，ボランティア団体は平日夜と土日に活動している。その時間帯に市民協働会議室こみっとルームを使うことはできないか。</p>
事務局	<p>土日にイベント等を行う場合でも市職員の立ち会いがなければ使用できない。基本的に市民協働会議室こみっとルームは市と団体の打合せのための場所であり，管理上，市職員の立ち会いがなければ使うことはできない。</p>
委員	<p>32ページに「協働推進のためのガイドブックの作成」とあるが，既にあるものを改正するのか。</p>
事務局	<p>前計画で作成しており，従来あるガイドブックを改正することを検討している。</p>
委員	<p>若者応援枠の創設は令和6年度から開始するのか，もしくは検討するということか。</p>
事務局	<p>具体的にどのような形で実施するかについて，協働推進委員会の皆様から御意見を伺い，実施は令和7年度からを目指したい。</p>
委員	<p>32ページの「企業と連携させた市民活動支援策の検討」について，企業が市民活動団体を支援するだけなのかという疑問がある。企業がパートナーとして，団体と連携した活動を促進するという表現にしていきたい。</p>
委員	<p>企業が一方的に支援するだけでなく，参画することで企業にもメリットがあるということか。</p>
委員	<p>企業が本業を通じて社会貢献することで問題を解決することにつながる。企業の社会貢献の形として支援だけにはとどまらないので，必ずしも支援する側と受ける側という関係性ではなく，企業と団体がお互いに強みを生かして連携するという形にすべきである。</p>
委員	<p>推進体制の強化について，第3次計画の大きな変化は，33ページ</p>

<p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p>の「(仮称)こみっとネット」の形成である。今後、資金調達やアドバイザーを調整していくことになるので期待したい。</p> <p>34ページの市民アンケートの呼びかけは1,000人だけであったため、広く呼びかけて市民の意識を反映させていただきたい。</p> <p>今回の委員会で発言できなかった意見については、追加で御意見をいただきたい。</p> <p>(今後のスケジュールについて説明)</p> <p>以上で令和5年度第3回水戸市協働推進委員会を終了する。</p>
-----------------------	--